

令和5年度図書館そだて会議（落合図書館）会議録

日時：R6年2月7日（水）

16時～18時

場所：落合総合センター2階 和室

1 開 会 高杉

2 あいさつ 中央図書館 西川館長

市内各地で今図書館を作っていくための会議をしている。明日は蒜山で開催予定。

今月、市立図書館全体をどうしていくか考えるための図書館協議会も開かれる。

市民のみんなと一緒に図書館を作っていくために、要望やお願い等を聞かせてほしい。

※出席者全員で簡単な自己紹介

3 今年度の落合図書館の取り組みと、来年度の目標について 高杉

図書館みらい計画の柱について説明（別紙）

◇運営実績について

来館者数、貸出冊数ともに伸び悩んでいる

1人あたりの貸出冊数は増えているが、団体貸出しが増加したためと思われる

◇そだて会議について

今年はそのだて会議前に図書館にアンケートを設置し、貴重な生の声をいただいた。できるものから実現に向けて取り組んでいきたい。

◇小学校や児童クラブへの貸出し・乳幼児健診に合わせた本の展示について

こども園等からの貸出し依頼は増加した。中央にも手伝ってもらいながら対応。

パパママクラスで図書館や本の紹介を行った。

◇真庭高校との連携について

図書担当の先生がかわったこともあり、連携が大きくは進まなかったが、高校向けの図書館だよりを作成し、隔月で掲示依頼を行っている。また医療のみでなく農業やビジネスに関する本も増やしていった。

◇イベントについて

長期休暇に行われる宿題応援に合わせて工作やDVD上映会等のイベントを行っている。好評。

スウィートブックについては参加者が低迷しており、来年度はこども園に働きかけ参加者が増えるよう検討する。

4 意見交換

(西浦さん) 図書館に子ども電話相談はあるか？

(事務局) 「電話相談」と掲げてはいないが、どんな本を読んだらよいか。といった電話での問い合わせに応えることはある。子ども本人ではなく親からの電話がほとんど。

(西浦さん) NHK で子ども電話相談というのがある。そのように、子どもが直接電話していいというのがあれば良いと思う。

(大田さん) 様々なものが A I 化されている現代、図書館の役割はどうあるべきかは今後の課題だと思う。

(大田さん) 蒜山図書館は地域の人々の利用が多い。昔地域に図書委員さんがいて、本の買い付け等も行ってた。自分たちの選んだ本が図書館にあったら。中・高校生や地域の人に本を選んでもらうのは良いかも。「こういう本がほしい」と意見が言える場を与えてあげる。働きかけが大切。

(瀬島さん) ぶっくるんを楽しみにしている家族もいる。高齢化で遠くに行けない人も増えてきているので、遠いところだけでなく近くの集会所等にも来てもらえたら嬉しい。

(大田さん) 図書館に色んな本があること、どんなことができるかが伝わっていない。頭のよい人が行く場所というイメージもあり、敷居が高い。

(西本さん) 図書館は今後どうしていきたいのか？ 来館者数を増やしたいのか、貸出し冊数を増やしたいのか。それによって取り組むべきことは変わってくると思う。また、図書館に来た人にアンケートをお願いしているので、反対に来ない人の意見が今回のアンケートには反映されていない。来ない人が行く理由がない。

(中央図書館) 図書館みらい計画を策定する際、運営状況を評価する指標について話し合い、実貸出利用率を高めることを目標とした。なにかのきっかけで 1 度でも図書館を利用してくれる人が増えたら嬉しいという意味もある。もし次回の計画策定の際、別の数字にするとしたらなにがよいだろうか。

(西本さん) 必ずしも数値化しなくてもよいものもあると思う。

(大田さん) 図書館がある地域はない地域に比べ幸福度が高いという調査がある。

(中央図書館) みらい計画の前文に自分の暮らし方は自分で考える、対話で作ることが書かれている。考える機会を得ることがまちづくりに広がってほしいと思う。

(瀬島さん) 5 つの柱が難しく理解しづらいところがある。やわらかく、優しい言い方にしたほうがよいと思う。

(下井谷さん) そだて会議も「会議」とすると堅いイメージになってしまう。参加して意見が言いやすいところに。

(西本さん) 図書館は子どもが自分で調べたくなる環境であってほしい。親が与えすぎないことが大切。

(事務局) 司書のレファレンスサービスは、最後は自分で見つけられるよう、対話をしながらお手伝いするもの。

5 閉 会